

鑑定入院患者の無断離院にかかる再発防止策について

資料 2

事項	原因及び問題点	再発防止策	備考
1 構造等 (ハード面)	1 窓（片開き窓）の開放制限をしていたストッパーが破壊された	1 建物全体を再点検し次の対策を講じた。 ①片開き窓は、開かないよう 固定 ②片引き窓は、開放制限の ストッパーを強化 ③排煙窓に 離院防止バー を設置 ④患者侵入の可能性がある出入口の扉を、 自動ロック扉 に改造	
2 体制等 (ソフト面)	1 鑑定入院患者を一般床で処遇していた 2 無断離院時の訓練を行っていなかった 3 捜索隊に警備員が含まれていなかった	1 鑑定入院及び鑑定留置患者については、原則、保護室で処遇しているが、鑑定のため一般床へ出す場合には、 離院リスクを十分に検討 した上で必要最小限にとどめる。 2 公表を想定した無断離院時の 訓練 を定期的に年 1 回以上 実施 する。 3 警備員を 1 名増員 し、緊急時の警備体制を強化した。	
3 公表等 （関係者に連絡 住民に周知 HP に掲載 記者クラブ発表 等）	一般病棟からの無断離院はケースバイケースで対応していたため、公表の決定に時間を要し、住民や関係機関への周知が遅れた 1 公表にあたり名古屋地裁の許可が必要であると考え連絡を試みたが、休日であったので担当者と連絡がとれるまでに時間を要した 2 休日で担当者が少数であったため、公表体制を整えるのに時間を要した 3 休日で担当者が少数であったため、医療観察法病棟地域連絡会議委員（住民代表及び関係機関）への連絡が混乱した 4 住民への周知を行う方法等が決められていなかった	鑑定入院患者、鑑定留置及び措置入院患者の無断離院についても、医療観察法病棟に準じて、速やかに公表することとし、下記の点を織り込んで公表等に関するマニュアルを整備した。 1 公表にあたり相談等が必要な機関があれば事前に協議し ルールを明確化 しておく 2 対応する職員が出勤不能である場合も想定し、 複数の職員 を無断離院対応のために 配置 する 3 住民代表や関係機関への連絡など最優先で行う事柄は、担当者でなくても誰でも対応できるようにしておく ① 緊急連絡先 を定期的に確認し、 最新のものに整備 しておく ②連絡等の 役割分担 や 伝達事項の様式 などを定める ③誤伝達を防ぐため、詳細な連絡は FAX を活用する 4 住民への周知の具体的方法についてマニュアルに定め、迅速な周知を行う (1) 近隣住民 ①職員が 病院公用車 で ハンドスピーカー を用い伝達する（千種警察署にも広報車、パトネット・学校安全ネット掲載を依頼する。） ②3 学区（自由が丘、東山、富士見台）の 区政協力委員長 に、 学区内の連絡網 を用いた伝達を依頼する (2) 学校関係 ① 近隣の小中高大学 8 校 （自由が丘小、東山小、富士見台小、千種台中、名古屋商高、名古屋聾学校、愛知高校、愛工大）へ当院から FAX を送信し、電話連絡する。 ② 校長会千種区会長 に電話連絡し、 千種区内の公立小中学校へのメーリングリスト での伝達を依頼する ③ 千種区総務課 に FAX を送信、電話連絡し、千種区民生こども課を通じ 千種区内の保育園への伝達 を依頼する (3) 県民 ①速やかに当院 ホームページ で公表するとともに、記者発表する。	